

### 第3回総合計画等評価委員会 要旨

1. 日 時 令和4年12月11日(日) 午後1時30分～午後5時00分
2. 場 所 松阪市産業振興センター、3階研修ホール
3. 出席者 青木信子委員、岩崎恭典委員、小野崎耕平委員、佐藤祐司委員、塚本明委員、志田幸雄委員、平岡直人委員、藤田素弘委員、松井信幸委員、村林守委員  
※川口淳委員 欠席

#### ≪総合計画≫

##### 【政策1 輝く子どもたち】

- ・潜在保育士活用事業の活動指標「潜在保育士就職・復職支援研修 受講者数」で、令和4年・令和5年の目標値がそれぞれ25人というのは、かなり高い目標値と感じた。
- ・保育士の復職研修を受講された方で、実際に何人が復職されたか追跡する必要があると思う。

##### 【政策2 いつまでもいきいきと】

- ・健康診査事業(実施計画 P29)の健診受診率が低いのは、松阪市の場合コロナ前から受診率は低かったため、コロナの影響ばかりではない。
- ・松阪市では、中学3年時にピロリ菌検査をしている。ピロリ菌の陽性率は5%で、95%の方はピロリ菌に感染していないので、こうした方々が継続的に胃がん検診を受ける必要があるのか、再考の余地がある。
- ・胃がん検診を受ける必要がある方には胃がん検診、必要がない方には別の検診を提供するようになれば、検診の受診率は上がるのではないかと。特に、他の市町村で実施していないような独自の検診を実施すると良いと思う。
- ・かかりつけ医(実施計画 P30)について。総合病院をかかりつけ医と認識している方が多いので、かかりつけ医の定義をはっきりさせた方が良い。これは、在宅見取りにも影響してくることで、総合病院での看取りは困難なため、一般診療所をかかりつけ医とすべきと思う。
- ・在宅見取り(実施計画 P32)について。松阪市ではエンディングノートなど、住民に対する取り組みはしっかりしているが、医療機関をどのように巻き込んでいくのかという面でまだ課題があると思う。

・地域包括ケアシステムについては、コロナ禍でも着々と前進しているが、高齢者施設では介護人材が不足している。三重県でも介護助手という制度を作ったが、なかなか人が集まらない状況がある。外国人の人材を採用する施設が松阪でも増えてきたが、介護人材の育成や研修などの施策に力を入れて欲しい。

・地域包括ケアシステムについて。松阪市は医師会と行政が連携して動いているが、コロナを考慮して進め方を変えていく必要があると思う。

・福祉人材の確保は全国的に大きな課題で、次の総合計画では介護人材の育成・確保を掲げていく必要があると思う。

・全国どこの自治体でも介護人材の不足が起きており、苦肉の策としてロボットの導入やデジタル化が進められているが、現状を打破する手立てが無い状況。

・介護職は離職率も高く、給与水準もなかなか高くない。また訪問医療及び訪問看護は、どの地域も需要に供給が間に合っていない状況。5年ほど前から医師の確保、医師を呼び込む仕掛けづくりに着手している自治体もあり、松阪市も人材の課題は早めに着手するべきではないか。次期総合計画において、医療人材及び介護人材の確保は柱にすべきと思う。

・近々みえ松阪マラソンが開催される。マラソン大会などをきっかけに健康づくりの機運が盛り上がることは世界的によくある事なのでとてもよい事業だと思う。

・健康無関心層や高齢の単身者、困窮状態のシングルマザー、中年のワーキングプアなど、不健康な状態に陥りやすい方々へアウトリーチしていく必要があると思う。対象者の把握は難しい課題だが、ワンストップ窓口で見つけていく方法や、不健康になりやすい方々は、他の福祉窓口を利用している場合もあるのでそこで拾い上げる方法もある。

・健康に関心の無い人をどうするかという課題を解決する方法の1つとして、例えば歩きやすい遊歩道の整備、公園の整備、あるいは学校給食のような食事を家庭でも食べられるようにメニューを公開するなど、「自然に健康になれるまち」の環境をつくっていくことが大事だと思う。

・自然と健康になれる環境づくりは、健康づくり課だけで対応するのは難しい。他市では部局横断的なタスクフォースを作っている例もあるので、検討してみてもどうか。

### 【政策3 活力ある産業】

- ・観光についてはコロナの影響が大きいですが、アフターコロナを見据え、情報発信などに力を入れていると思う。
- ・ウッドショックの影響で木材チップの利用が減少した。松阪市はバイオマス発電計画があると思うので、ある程度潤沢にチップ材を搬入できるような環境を確保してはどうか。
- ・障がい者雇用率が未達成であることについて。ハローワークと協力した障がい者雇用の指導や、障がい者雇用を行っていない企業名の公表などの踏み込んだ対策は行ってはどうか。

### 【政策4 人も地域も頑張る力】

- ・文化事業は評価システムには反映されない部分が多く、数値目標の達成、未達成以外の部分に着目する必要があると思う。
- ・松阪市は、住民自治協議会と連携して文化事業に取り組んでいる面が素晴らしいと思う。
- ・松阪市の文化事業において特に大きな課題は、中心部と旧町部で格差があることだと思う。
- ・昨年度市内の指定文化財の現状についてアンケート調査を行ったが、これは先進的な取組で、このアンケート調査で各地の祭礼が廃れていっている事が明らかになっている。この状況を念頭において文化財保存活動や関連計画の策定を行ってほしい。
- ・「中山間地域の振興」の施策で、「空家バンク成約世帯数」という活動指標があるが、本来は、現在地域にお住まいの方の満足度や幸福感を確保することが目標となるのではないかと。市として少し工夫が足りないのではないかと。
- ・飯南、飯高地域は中心部と全く違う価値観、地域資源があり、それらの掘り起こしに取り組む必要がある。魅力ある地域づくりとは何も無いところから独自の価値観などが生み出されることから始まる。
- ・経済の振興だけでは都会に太刀打ちできないが、都会に無い独自資産が松阪市にはあり、同様に市内中心部にはない資産が過疎地にはある。そういった地域独自の魅力ある資産をどのように活かしていくか、政策横断的な取組が必要だと思う。

・飯南高校の問題について。県立高校だが市の取組姿勢が県を動かす事になる。今後どのように活性化させるのかを市として考えて欲しいと思う。

#### 【政策5 安全・安心な生活】

・交通事故対策にも環境づくりはとても大事。道路は車が走りやすいように整備されるので、交通弱者が事故に遭ってしまう。歩行者に配慮した道路整備が必要だと思う。

#### 【政策6 快適な生活】

・政策6「快適な生活」については、市民満足度の数値目標が多くE評価が多い。市民満足度は市全体で見られるのですぐには上がらないと思うので、補足的な指標を設けて評価してはどうか。

・公共交通について。バスロケーションシステムなどのIT技術を導入して、乗客の待ち時間の削減などに取り組むことで、利用者数の増加や市民満足度を上げる事ができるのではないかな。

・道路整備について。幹線道路やバイパス道路の整備だけでなく、道路標示や停止線などが描かれていないといった事も満足度に影響しているのではないかな。インフラ投資を市民満足度に繋げることが課題だと思う。

・「点検に基づき修繕する橋りょう数」という指標については、よりアウトカムな指標を設けても良いと思う。

・ハード事業については「整備した」「点検した」だけでなく、それが施設等の長寿命化にどの程度寄与したかなどを測定する必要があると思う。

#### 【政策7 市民のための市役所】

・「部局長の執行宣言」に行政サービスが市民生活にどういう効果をもたらしたかが記載されていないように思う。総合計画の目標の実現に向けてどういう業務に取り組んだかをコメントし、「市民のための市役所」であることが市民から見て分かるようにするべきだと思う。

・数値目標で評価する事は悪い事ではないが、部局長や所属長のマネジメントのように、数値では評価できないものがあると思うので、そういったものは、部局長にコメントをしてもらうかたちで補ったら良いのではないかな。それについて市民から指摘があったものは、PDCAサイクルに反映していくべきではないかなと思う。

・松阪市は窓口の表示が分かりやすく、入口の近くに外国人窓口もあり、市民の方を向いていると感じる。「市民のための市役所」はかなり達成されていると思うので、そうしたところをもっとコメントしてはどうか。

・財政状況について。市民から徴収したお金がどのように使われたのかを実行宣言のどこかで表現をしてもらいたい。「財政の健全性を保ちながら、これだけの投資をして、こういった市民サービスを行いました」というコメントをするのも一つの方法かと思う。

・投資に対する効果や、マネジメントをどう評価するのか。仮にそれらが評価の対象に出来ないのであれば、実行宣言をベースに市民と対話していくというやり方もあるのではないか。

・事業や施策の評価はどこ自治体でも取り組んでいるが、スタンダードがないのはどの自治体も試行錯誤の状況にあるから。評価結果を一部予算と連動させている松阪市は先進的で、最も大切な事は、評価結果を振り返っていかにつ映するかということ。

・評価の在り方は社会状況の影響を受けるもので、マネジメントする立場の部局長はその時々々の市民ニーズ、緊急性、適時性を考慮しながら、評価をするのが良いと思う。

・評価システムには寄与度というものを設けている。これは評価システムが単に数値目標の達成のみを評価するものではなく、部局長の想いを加味した評価とするためのもので、思いを反映させることが大事なこと。

・市職員を対象にした評価システム研修会では理解度にかなり差があった。評価の最終的なゴールが事業の改廃で、いただいた税金をどのように投資、配分するかの判断に繋げるためにあるという事が、正確に理解されなかったと感じた。若手職員のうちから松阪市がどのように行政経営をしているかを知ることが大事だと思う。

・事業によってはどうしても数値目標を設定できないものがあるかもしれないが、それらも指標として何らかのものを見出す必要があると思う。

・評価結果として現れた数値はあくまで参考情報なので、それをどう活用していくかを考えていくのが大事だと思う。

・定量的な評価と定性的な評価を混在させるのは難しいと感じている。部局長の想いや熱意を数値化するため AHP を取り入れた現在の評価システムを作ったので、このシステムで政策横断

的な取組などについても評価できるのではないかと現時点では思っているが、意見がある場合は修正することもあり得る。

- ・評価結果と財政運営との連動については、結果をそのまま反映して一律にシーリングをかけるのではなく、政策ごとに濃淡をつけるための参考情報として使うと良いのではないかと。

- ・横断的な施策や取り組みの評価については、現状では、それぞれで評価の平均をとるというやり方になる。10年という長期的なスパンの計画の場合、その時々で評価の重みづけを変えていくという方法もあるのではないかと。「動的計画法」という、計画の初期値を変えていくやり方で評価システムも運用していけば良いのではないかと。

政策横断的な事業の評価については「総合プロジェクト」として政策体系の前に設定するというやり方もある。評価システムに組み込むのではなく、別途評価するという手法もあるのではないかと。

- ・数値目標を達成できなかった時に予算を削る、というプレッシャーをかけると、現場は嘘の評価をしてしまい上手くいかない事がある。行政評価は自分の仕事を管理するために行うべきものなので、あくまで主体的に行う必要があると思う。

## 《地方創生総合戦略 ※重複掲載》

### 【Ⅰ. 定住促進】

- ・「中山間地域の振興」の施策で、「空家バンク成約世帯数」という活動指標があるが、本来は、現在地域にお住まいの方の満足度や幸福感を確保することが目標となるのではないかと。市として少し工夫が足りないのではないかと。

- ・公共交通について。バスロケーションシステムなどの IT 技術を導入して、乗客の待ち時間の削減などに取り組むことで、利用者数の増加や市民満足度を上げる事ができるのではないかと。

- ・観光についてはコロナの影響が大きいですが、アフターコロナを見据え、情報発信などに力を入れていると思う。

### 【Ⅱ. 少子化対策】

- ・潜在保育士活用事業の活動指標「潜在保育士就職・復職支援研修 受講者数」で、令和4年・令和5年の目標値がそれぞれ25人というのは、かなり高い目標値と感じた。

・保育士の復職研修を受講された方で、実際に何人が復職されたか追跡する必要があると思う。

### 【Ⅲ. 雇用創出】

・観光についてはコロナの影響が大きいですが、アフターコロナを見据え、情報発信などに力を入れていると思う。

・ウッドショックの影響で木材チップの利用が減少した。松阪市はバイオマス発電計画があるので、ある程度潤沢にチップ材を搬入できるような環境を確保してはどうか。

・南三重の就活サイトなのに掲載されているのは松阪市と尾鷲市のみで、2つの市しか掲載されていないのは寂しい。関係市町は登録するようにしてほしい。

・インターンシップの開催情報など、過年度の情報が掲載されていたりするので、正確なものを掲載するようにしてほしい。

・大学生は、まずは大企業への就職や大学院進学を希望する。最初から松阪に帰りたいという学生が増えたら良いが、なかなかそうはならないので、企業側から、「たとえ第2希望、第3希望であっても受け入れます」という雰囲気が出るような情報発信があると良いと思う。

・例えば夏以降の採用情報、中途採用情報などがしっかり発信されていれば、松阪に帰ろうかと考える学生は増えると思う。「困ったら地元がある」という雰囲気を出していくと良いのではないかな。

・4月採用をしている企業が多いが、いずれは通年採用が増えてくる。また採用前提のインターンシップ多くなっているので。中途採用などをベースにしたJターンUターンも十分考えられると思う。

・高校生の場合は、高校の授業に「探求」の時間が設けられているので、そこで生徒に地元への定着を考えてもらう取り組みも良いのではないかな。

### 【Ⅳ. 地域づくり】

・飯南、飯高地域は中心部と全く違う価値観、地域資源があり、それらの掘り起こしに取り組む必要がある。魅力ある地域づくりとは何もないところから独自の価値観などが生み出される

ことから始まる。

- ・近々みえ松阪マラソンが開催される。マラソン大会などをきっかけに健康づくりの機運が盛り上がることは世界的によくある事なのでとてもよい事業だと思う。

- ・健康に関心の無い人をどうするかという課題を解決する方法の1つとして、例えば歩きやすい遊歩道の整備、公園の整備、あるいは学校給食のような食事を家庭でも食べられるようにメニューを公開するなど、「自然に健康になれるまち」の環境をつくっていくことが大事だと思う。

- ・自然と健康になれる環境づくりは、健康づくり課だけで対応するのは難しい。他市では部局横断的なタスクフォースを作っている例もあるので、検討してみてもどうか。

- ・交通事故対策にも環境づくりはとても大事。道路は車が走りやすいように整備されるので、交通弱者が事故に遭ってしまう。歩行者に配慮した道路整備が必要だと思う。

#### 《地方創生推進交付金》

- ・南三重の就活サイトなのに掲載されているのは松阪市と尾鷲市のみで、2つの市しか掲載されていないのは寂しい。関係市町は登録するようにしてほしい。

- ・インターンシップの開催情報など、過年度の情報が掲載されていたりするので、正確なものを掲載するようにしてほしい。

- ・大学生は、まずは大企業への就職や大学院進学を希望する。最初から松阪に帰りたいという学生が増えたら良いが、なかなかそうはならないので、企業側から、「たとえ第2希望、第3希望であっても受け入れます」という雰囲気が出るような情報発信があると良いと思う。

- ・例えば夏以降の採用情報、中途採用情報などがしっかり発信されていれば、松阪に帰ろうかと考える学生は増えると思う。「困ったら地元がある」という雰囲気を出していくと良いのではないかな。

- ・4月採用をしている企業が多いが、いずれは通年採用が増えてくる。また採用前提のインターンシップ多くなっている。中途採用などをベースにしたJターンリターンも十分考えられると思う。

・高校生の場合は、高校の授業に「探求」の時間が設けられているので、そこで生徒に地元への定着を考えてもらう取り組みも良いのではないかと。

・マッチングサイトなどのインフラ基盤はできているが、今後どう運用していくか、最終的な成果を期待したい。